

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【食】【交流】

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 長野県池田町 ^{いけだまち} |
| 2. 団体名 | 金の鈴まごころ会 |
| 3. 取組みの名称 | 「花とハーブの町」の新たな流通 |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

昭和61年、長野県主催の農村婦人学校で学んだ仲間と池田町生活改善グループ連絡協議会を設立した。農産物を有効に活用し、心豊かな生活を目指していく中で、個性のある農業を展開して「女性の技」を活かした、ふるさとの味開発事業で梅漬の商品化を実現した。その後、商工会女性部の仲間とともに農業振興と商店街の活性化を図るため、平成10年より金の鈴朝市を開設した。

朝市の開催により農業生産者の意欲が盛り上がり、また消費者には地産地消、安全・安心、新鮮な農産物の提供のほか、旬の食材・地産の品を使った郷土料理等の講習会の開催により、町の一つの名物として発展している。

また、平成12年にはホテル・レストランへのハーブと農産物の直販を開始したが、池田町が「花とハーブ」の町を推進していることと、農家が食材のハーブをすでに栽培し、これらを活かしたいと考えていたこと、商工会の地域資源を活かす調査研究事業とがマッチングし、池田町のハーブ・野菜の食材提供事業が平成13年から始まった。事業は、周辺の観光地域にあるレストラン市場と料理人協会の司厨士会のアドバイスなど、それぞれの連携で生まれたものである。

レストランへのハーブ・野菜情報の提供と配達は毎週行っており、取り扱い品には地元野菜や米、季節物の山菜や果物なども加えている。その注文方法は、情報リストを毎週FAX送信し、返信の注文により各農家へ出荷を依頼するもので、出荷日には出荷場所へ注文野菜を集め当番の女性が配達している。

配達の際、厨房のシェフとの会話の中から新たな食材ニーズを得たり、野菜や品質に対するアドバイスをもらい、これらを農家へ情報提供しながら品揃えを充実させているほか、シェフの人達に生産現場の畑を見てもらうことで相互の理解を深め、顔の見える関係と、安全さ、新鮮さを味わってもらっている。

現在、取り扱い地域は白馬方面の観光地のほか、安曇野市や松本市のレストラン、さらには東京都内への直送も行っており、農商工連携と広域の地産地消によるハーブ・野菜の特産化の輪は広がりを見せている。

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
売り上げ	3,555	3,567	3,463	6,658	7,237
解説	単位：千円				
取引先数	5	10	15	23	25
解説					

◇活用している地域資源

- ・ハーブ：バジル、ミント、チャイブ、ルッコラ、セージなど約20種
- ・農産物：ラディッシュ等小物野菜、リーフミックス、一般野菜、米など
- ・畜産物：烏骨鶏の肉・卵、有精卵など
- ・水産物：信州サーモン、ニジマス
- ・その他：山菜、このこ、果物など

◇地域活性化のポイント

池田町で初めての女性農業委員が誕生した時期、農業の振興と街の活性化を目指して、商工会の女性グループ「セイムI（アイ）」と一緒に商店街で野菜の直売市を始めた。空洞化している商店街に、直売市のある日は人の流れができた。回数を重ねるごとに多くなる人の流れに、お客さん、生産者ともに活気があふれた。

一方で、花とハーブの町を提唱しているまちづくりに着目して、ハーブに似合う農産物、水産物を中心に、洋食を主にしたホテル・レストランへハーブ・野菜情報を発信して注文を受け付けた。その中で要望のあるもの、町内農家でも扱えるものを栽培して一般の直売より高値で取引できるようになり、農家の生産意欲が高まった。また、地元野菜をたくさん使用しているレストランは集客にもつながり、まちづくりのイメージも向上した。

◇事業の今後の展開方向

女性を中心とした任意団体で8年間辛抱強く実践してきたが、今後も「花とハーブの町」のまちづくりに沿って、ハーブ・野菜を通じて「健康と潤いのある町」をつくっていく。

地元の北安曇郡内にはスキー場がありリゾート地として注目されているとともに、流通圏としては農産物を新鮮で美味しいうちに食べることができる。そこで、池田町らしさ、信州らしさの追求、新鮮な素材を提供することによって観光にも大きな役割を持たせる。

また、地産地消が注目を浴びている中で、農家からホテル・レストランへの新たな流通を通じて「花とハーブの町」づくりが実践できるほか、直売のシステムも個性が求められている中で、需要のある作物を生産し、小規模でもやりがいを感じ、女性や熟年者でも意欲を持って取り組むことができる。

さらに、池田町には元来からある酒造メーカーと良い水、たくさんの文化的要素や北アルプスの眺望、上質のぶどうでできるワイン等、様々な地域資源がある。その中でも、健康に良いとされるハーブに若い人たちから関心が持たれるようになったことで、再び地域の資源を再評価し取り組みを継続していく。

